

地域特性把握調査：地表性小型哺乳類調査について

1) はじめに

地域特性把握調査は、大台ヶ原地域における動物相・群集の現況を把握し、その長期的な変化を評価することを目的として行っている。哺乳類調査のうち、本年度は地表性小型哺乳類調査を実施している。

2) 方法

調査方法は植生タイプ別調査と同様である（資料 1-9 参照）。

シャーマントラップを 25 個（5×5 個、それぞれ 5m 間隔で格子状に設置）、ピットフォールトラップを 9 個（3×3 個、それぞれ 10m 間隔で格子状に設置）を各調査地点に設置し（図 1）、連続した 3 晩の捕獲を行った。シャーマントラップにはベイトとしてビーナッツバターで炒めた食パンの小片を入れた。また、捕獲個体の体温低下による死亡を避けるため、シャーマントラップ内には綿を入れ、雨よけの為に外側にビニール袋をかけた。ピットフォールトラップには少量の綿を入れた。わなは設置後毎日午前中に巡回した。1 つのわなを 1 晩設置した捕獲努力量を 1 トラップナイトとし、有効のべわな数の指標として調査地点毎に算出した。ただし、巡回時にネズミ以外の動物が捕獲されていたわなや、捕獲動物が無い状態で閉じていたわなは数を記録し、当該のトラップナイトは有効のべわな数から除いた。捕獲個体は種同定、性別判定を行い、毛刈りによってマーキングをした後に放逐した。マーキングされた個体が再捕獲された場合には、捕獲頭数から除いた。調査は 6 月と 10 月の 2 回実施予定であり、6 月の調査は 6 月 21 日から 26 日に実施した。

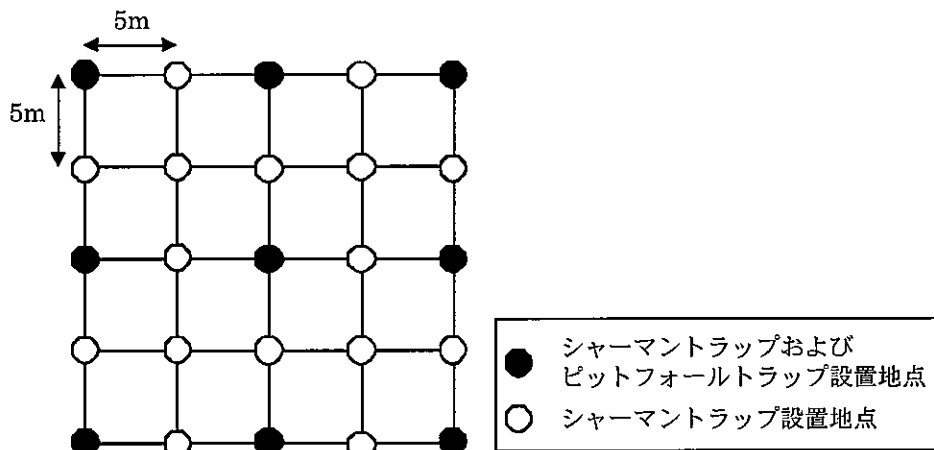


図 1. 各調査地点におけるシャーマントラップおよびピットフォールトラップの設置形状

調査は5地点において実施した(表1、図2)。シントウトガリネズミ、ヒメヒミズ、ジネズミと言った、植生タイプ別調査では捕獲されにくい種の生息状況を確認するため、調査地はそれらの種が生息しやすい環境(礫の積み重なったガレ場、コケの生えた植生、下層植生が比較的豊富)を選択して設定した。

表1. 調査地点の概要

調査地点番号	植生・景観特性	柵内/外
⑮	トウヒ-コケ型・沢沿いのガレ場(礫小)	柵外
⑯	トウヒ-コケ型・沢沿いのガレ場(礫大)	柵外
⑰	ヒノキ-コケ型・ガレ混じりの斜面下部	柵内
⑱	ブナ-コケ型・ガレ混じりの斜面下部	柵外
⑲	ブナ-コケ型・涸れ沢のガレ場(礫大)	柵内



図2. 地域特性把握調査(地表性小型哺乳類調査)における調査地点(四角)

丸数字は調査地点番号、■は地域特性把握調査地点(柵内)、□は地域特性把握調査地点(柵外)、●は植生タイプ別調査地点(柵内)、○は植生タイプ別調査地点(柵外)

3) 結果

シャーマントラップによる各調査地点での捕獲個体数を表2に示した。また、シャーマントラップでの100トラップナイトあたりの各種の捕獲個体数を算出し、表3に示した。なお、地域特性把握調査の5調査地点では、ピットフォールトラップでの捕獲個体は無かった。本年度6月のシャーマントラップでの捕獲調査では合計362トラップナイトによって、3種（スミスネズミ、アカネズミ、ヒメネズミ）合計25個体が捕獲された。これらの3種はいずれも植生タイプ別調査においても捕獲された種であり、新たな種の確認は無かった。

表2. シャーマントラップでの各調査地点における種別捕獲個体数

調査地点番号	調査期間	有効のべわな数	捕獲個体数				合計
			ヒミズ	スミスネズミ	アカネズミ	ヒメネズミ	
⑮	6月22～25日	68	0	0	0	1	1
⑯	6月21～24日	73	0	0	0	1	1
⑰	6月23～26日	73	0	2	1	10	13
⑱	6月21～24日	74	0	0	2	2	4
㉑	6月21～24日	74	0	1	1	4	6
合計		362	0	3	4	18	25

表3. シャーマントラップでの100トラップナイトあたりの種別捕獲個体数

調査地点番号	調査期間	捕獲個体数/100トラップナイト				合計
		ヒミズ	スミスネズミ	アカネズミ	ヒメネズミ	
⑮	6月22～25日	0.0	0.0	0.0	1.5	1.5
⑯	6月21～24日	0.0	0.0	0.0	1.4	1.4
⑰	6月23～26日	0.0	2.7	1.4	13.7	17.8
⑱	6月21～24日	0.0	0.0	2.7	2.7	5.4
㉑	6月21～24日	0.0	1.4	1.4	5.4	8.1
合計		0.0	0.8	1.1	5.0	6.9

表4に、過去の調査および今回の調査（植生タイプ別調査も含む）における地表性小型哺乳類の生息確認種リストを取りまとめた。シントウトガリネズミについては既存文献において生息情報があるものの、自然再生事業の開始以降、まだ生息が確認されていない。また、今回の調査ではヤチネズミ、ヒメヒミズ、ジネズミについても生息が確認されなかった。

表4. 地表性小型哺乳類の生息確認種リスト

		生息確認の有無				
種名	学名	既存情報	16年度調査	18年度調査	20年度調査	23年度調査 (6月のみ)
シントウトガリネズミ	<i>Sorex shinto</i>	○				
ジネズミ	<i>Crocidura dinezumi</i>		○	○		
ヒメヒミズ	<i>Dymecodon pilirostris</i>	○	○	○		
ヒミズ	<i>Urotrichus talpoides</i>	○	○	○	○	○
スミスネズミ	<i>Eothenomys smithii</i>	○	○	○	○	○
ヤチネズミ	<i>Eothenomys andersoni</i>	○		○		
ハタネズミ	<i>Microtus montebelli</i>	○		○	○	
アカネズミ	<i>Apodemus speciosus</i>	○	○	○	○	○
ヒメネズミ	<i>Apodemus argenteus</i>	○	○	○	○	○

調査は10月に再度実施する予定であり、その結果を加えて現時点での大台ヶ原地域における地表性小型哺乳類相の構成について考察する。